

## 令和7年度第2回輪之内町総合教育会議

日時：令和8年2月26日

16時30分～

場所：輪之内町役場公室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事録署名委員の指名について
4. 報告事項
  - (1) 輪之内町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について
5. 協議事項
  - (1) 令和8年度教育課所管の主要事業（案）について
6. 意見交換
  - (1) 教育を取り巻く現状と課題について（自由討論）
7. その他
8. 閉会

### 輪之内町総合教育会議委員

町長	朝倉和仁	教育長	増田浩志
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	市橋肇	教育委員会委員	市橋修
教育委員会委員	金森京子(欠席)	教育委員会委員	浅野哲男

輪之内町総合教育会議事務局

副町長	荒川 浩	教育委員会 教育参事兼教育課長	田内 満 昭
教育委員会 主 幹	浜田 一郎	教育委員会 主任指導主事	石川 賀 崇
総務危機管理課長	松岡 博 樹	総務危機管理課長補佐	馬場 優 子

## 1. 開会

○松岡総務危機管理課長 それでは失礼いたします。

令和7年度第2回の輪之内町総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。

それでは、まず初めに朝倉町長から挨拶をよろしくお願いいたします。

---

## 2. 挨拶

○朝倉委員 それでは、冒頭の挨拶させていただきます。

今まだ教育委員会が終わったばかりということで、本当にお疲れのところ御参集いただきましてありがとうございます。

最近、2回ばかり中学生と語ることがありました。

1回目は、ふるさと納税の輪之内がちょっとたるんでおるということで、子供たちが自ら考えて、いろいろと新しい返礼品なんかのアイデアを、3年生が全員発表してくれてやってくれました。

それから、しばらくしてから、あかりのわのプロジェクトで、あれは1年生が大半で、2年生の子も一部、今年やってみてどうだったというようなことで反省と報告に来てくれました。ああいったことを中学生が自分らで考えてくれたということが本当に非常にありがたいことでして、この間も3年生の子には言ったんですけど、輪之内の場合、高校がないもんですから、何かやりましょう、何かコラボしましょうとなると全部中学校へ行ってしまうんですね。多分、中学校の先生方に見れば、何で中学校ばかりって。

例えば海津みたいに地元で高校があれば、高校の子とコラボというのはできるんですけど、なかなかそれができないので、本当に中学校のみんなごめんねと。何をやるにしても、あんたらにすぐ行ってしまおうというようなこともあるんですけど、片一方で、いろんな経験をやっばりしてもらいたいという思いもあります。ふるさと納税の検討ですとか、グループによってかなり温度差がありました。一生懸命やっているなあというようなところと、ちょっと足りんなあというようないろいろありましたけれども、とにかく町がこういう状況で、そのために何か考えないかんで、あかりのわもそうですけれども、暗い町を明るくしようということで、ちょっとでも関わって、後々何か自分の役に立ててくれればいいかなあと。また来年度もいろんな形でどんどん関わらせていきたいなあと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○松岡総務危機管理課長 ありがとうございます。

続きまして、増田教育長からも一言お願いします。

○増田委員 改めまして、皆さんこんにちは。

昨日、町長さんが来年度予算の概略について新聞発表されました。おとといかな。昨日岐阜新聞には載っておったんですけども、その項目を見ますと、教育課に関わる内容が幾つか上げていただきまして、特に不登校対策として校外支援センターフレンドスペースにじ、それからいじめ対策の一環として、あるいはいわゆるモンスターペアレントの対策としてスクールローヤーの委託、それから今後の学校のあり方についての検討委員会、それから輪之内中学校の体育館の空調工事等、教育課に関わることを多数入れておいていただいておりますので、それだけ教育に関わる問題について重点を置いているよという表れだと思いますので、改めて身が引き締まる思いとともに、教育委員の皆さんの御協力も得ながら、先ほども申し上げましたけれども、来年度以降に生かしていきたいなあというふうに考えております。

今日またいろいろ御意見を自由に討論していただきたいなあと思っていますので、どうかよろしくお願いたします。

○松岡総務危機管理課長 ありがとうございます。

---

### 3. 議事録署名委員の指名について

○松岡総務危機管理課長 それでは、議事録署名委員の指名をさせていただきたいと思います。

2名で、市橋修委員と浅野哲男委員、よろしくお願いたします。

---

### 4. 報告事項

○松岡総務危機管理課長 続きまして、次第の4. 報告事項、輪之内町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について、説明よろしくお願いたします。

○浜田教育委員会主幹 それでは、輪之内町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について御説明いたします。

資料はございますか。

これは、先日定例教育委員会で御指導いただき、本日総合教育会議で報告の義務があるというものです。

それでは、1ページをお願いします。

まず、本計画の趣旨です。

本計画は、教職員の長時間勤務を改善し、心身ともに健康な状態で専門性を発揮できる環境を整えることで、結果として子供たちへの教育の質を高めることを目的としております。働き方の改善はもちろん、働きやすさ、働きがいと両立して、学習指導要領において目指されている理念の実現に向けてよりよい教育を行うことを目的としています。単なる労働時間の削減ではなく、業務の精選と効率化を進め、教職員が本来の業務である授業や子供と向き合う時間に

力を注げる環境づくりを目指すものです。

次に、現状です。

本町では、学校管理規則に教職員の時間外在校等時間の上限を月45時間、年間360時間と定め、これまで取組を進めてきました。

2ページを御覧ください。

その結果、令和6年度の平均は小学校で39.5時間、中学校39.4時間と、ここ3年間で一定の改善が図られています。しかし一方で、月45時間を超える教職員が小学校で35%、中学校で38%と依然として課題があり、さらなる改善が必要な状況です。

次に、目標です。

まず時間外在校等時間については、月45時間から月30時間以下に改善しました。文部科学省より30時間と指導があったためです。そこで、月30時間以下の割合を令和8年度75%から段階的に上げ、最終的に100%へ、年間平均も月30時間程度に抑えることを目標としています。

また、働き方の質に関する目標として、年次有給休暇の平均取得10日以上、高ストレス者の割合を現在の7%から5%以下へ、働きがいに関する肯定的回答を57.8%から75%以上へといった改善も目指します。

次の計画期間については、令和8年度から11年度までの4年間としています。

では、3ページをお願いします。

具体的な取組内容についてです。

本計画の中心となるのが業務の見直しです。大きな柱は「業務の3分類」、19項目に基づく整理です。

まず、アの学校以外が担うべき業務です。例えば通学路の見守りは地域や保護者へ、夜間の見守りは地域や警察へ、過剰な苦情対応は教育委員会や専門家へなど、役割分担を明確にして学校の負担軽減を図ります。これらは今もう実際に行われておりまして、学校の業務にはなっていないところもありますので、さらに学校と役割を明確にして負担を軽減していきたいと思っています。

次に、イ、教師以外が積極的に関わる業務についてです。

4ページをお願いします。

調査回答や広報は事務職員やICT支援員が、施設管理やICT管理は専門人材や外部委託を活用し、部活動は現在も地域移行が進んでおりますが、さらに推進していくなど役割分担を進めます。

さらに、ウの教師の業務であっても負担軽減を図る分野です。授業の準備や採点はICTや支援スタッフを活用。今、中学校は中間テストや期末テストもアプリというか、そういうもの

を使ってやっておりますので、学校行事や進路指導は分担、外部連携を推進。支援が必要な児童・生徒も増えてきておりますが、専門職と連携することで教員1人に負担が集中しない体制を整えていきます。

6 ページをお願いします。

2. 学校における措置の推進についてです。

まず、授業時数の適正化を図ります。今は台風などの災害やインフルエンザによる学級閉鎖を過度に心配して、標準授業時数を大幅に超えて計画している学校もありますが、それらを適正化を図って年間1,086時間程度に抑えていきます。また、日課の見直しをしたり、デジタル化による業務効率化をしたりし、学校全体の働き方を改善します。

3. 教育職員の健康及び福祉の確保についてです。

健康面では、まず月80時間超えの教職員をゼロにします。もし、万一超えた場合は医師と面談すること、それから勤務間インターバルを確保し、終業から始業までの休み時間、つまり家庭での時間を大切にしていきます。その他、ストレスチェックの活用。水曜日や、学校では早く帰るということで8のつく日など、定時退校日を月6回以上設定すること。長期休業中の一斉閉校（閉庁日）を、今年は4日間でしたが、5日、6日というふうさらに設定していくなど実効性のある対策を講じていきます。

最後に、フォローアップ、今後の進め方です。

在校時間の状況は、毎年定例教育委員会、総合教育会議で報告していきます。ここの報告で虚偽の報告をすると管理職が懲戒処分となるということですので、そして課題のある学校には個別で支援をしていきますし、専門人材の確保や研修の充実を進めていく、保護者や地域にも周知し、協力を得ていくことで計画を着実に推進していきます。

最後になりますが、冒頭でも話しました本計画は、教職員の負担軽減だけでなく、必ず子供と向き合う時間を確保し、教育の質を高めることを最終的な目的としております。教育委員会として、学校、地域と連携を図りながら持続可能な教育環境の実現に取り組んでまいります。

以上で説明を終わります。

○松岡総務危機管理課長 ありがとうございます。

ただいま報告いただきました計画について、何か御質問、御意見ありましたらよろしく願います。

○朝倉委員 ちょっと1つまず確認なんですけど、減らすという目標、それはそれでいいんですけど、今現在のこの現状は、これが正しい数字なのかどうか。要は先生らがきちっと、いわゆるサービス残業していないかという。この数字は正しい数字なんですか。

○浜田教育委員会主幹 正しいというか、これ、学校から上がってきた数字が正しいかどうかと

言われますと、もうそれは管理職の責任になります。

○朝倉委員　そうですね。そのところ、逆に先生方の感覚でいいんですけれども、さっき最後にうそついたら懲戒だよという、そういう雰囲気というのは、今学校の中ではある程度当たり前なのか、いやいや、まだまだそんなのはきれいごとで、どんどんやれやれというところがあるようなのか、どんな感じですか。

○浜田教育委員会主幹　感じ、感じだけです。毎日いるわけではないですが、私が教頭的时候は、本当にうそはつかないでと。増えてもいいからということで、私が務めているときも、びっとやって働こうとする先生はいました。でも、それをやっておったら意味がないので、うそはつかずに、多くてもいいから、それが削減につながっていくから、うそはつかないでねというふうで言っていました。

ただ、今事務所からというか、教育事務所からも何時間何時間という、その時間だけではないけれどという説明はあるんですが、何人45時間以上で、何人60時間以上なんだという表を毎月毎月出させてもらって、指導しているかというふうに圧がかかるといいますか……、ですと、どうなのかなというところもありますが、ただ、早くなっているのは確かだと思います。部活も、そんな遅くまでやって、その後、仕事をして帰るといった雰囲気ではないので。中学校は逆に早いかなという。

○増田委員　かつて校長をやっていた者としてですけれども、今、浜田主幹が言ったように、私も正直に輸入してくれと。別に、今月もう少しで45時間超えちゃうから、44時間52分ぐらいになるようになってなくていいから、その代わり、ちゃんと残っているのであれば、所定の様式の紙がありましたので、こういうために残って仕事していきますというのをちゃんと下さいと。そうすれば、しっかりやってもらっている内容も含めて把握できるからということでお願いしておりましたが、どうしても真面目な方ほど、45というラインを守ろう守ろうとする傾向にはあったと思いますが、今状況も大分変わってきたと思いますので、性善説ではありますが、正しい数字に近いと信じております。

先ほど浜田主幹も言いましたが、目的は45時間以上、30時間以上をゼロにすることではなくて、最終的に浮いた時間をきちんと児童・生徒に使っていきましょうよという、それが目的なので、そこをしっかりと分かるように校長先生方からも説明していただくようお願いはしているところですが、新しい年度になりましたら改めてお願いして、教育振興会の総会や何かでも、先生方全員に対してお話ししたいなあというふうに思っております。

○市橋（肇）委員　意見ということで。

私は教育関係には従事していなかったんですけど、僕は根本だけ言いますと、給特法という法律があることが私はすごく矛盾していると。労使一体となって、こういうものというのは進

めなきゃいけないんですけれども、給特法があって、ある上限が決められて、ある一定、前払いしているという位置づけの残業というものの捉え方がおかしいんじゃないかと。そういうところが、私などのような一般の会社員でサラリーマンで来た人間からすると、なかなか納得いかない。

私たちも、一般の組合活動の中ではある程度自己申告して、時間を認めてもらえるならば、それで残業代が来ると。サービス残業をしなくちゃいけないということは、例えば新人の時代に、時間はやっているんだけど時間の効率的な使い方をしていない、それから成果が上がらないような働き方をしていることによって認められない時代もありましたが、今はほとんど自己申告をして自己管理するというので、使用者側も労働者側を信頼申し上げてやっているんだから、当然のように、働く側も先ほど言われたような、自分たちがどうやってきたかということのを正直にきちっと伝えるということは、僕はあってしかるべきだなあと。ましてや聖職である教職員においては、指導している子供たちに対して、やはり自分なりの勝手な解釈でやるというんじゃないくて、誠実に自己申告するという姿勢を示さなければ子供たちに悪影響を及ぼしますから、そういうことはあってはならないと。

逆に、管理職のほうは、もうそこら辺は信頼してやるという形でいいんじゃないかなあと。いつまでもちゃんとやってくれているか、サービスしていないかとか、そんなことをおもんばかるような時代じゃないと。だったら、もっと給特法なんかを見直しをして、もっと残業というもの、教職員の残業というものがどんだけあるかということのを明々白々にしたほうがいいんじゃないかなあと。実績に基づいて払うという方式にして、前払いするというのはもってのほかだということのを個人的には感じています。

勝手なことを言いました。すみません。何か特殊な世界ですよ、教職員の世界って。

#### ○荒川副町長 本当にまさしく私も同感ですね。

本当にやっぱり我々も昔はサービス残業が当たり前というか、美德で、遅うまで残って一生懸命頑張っている、歯を食いしばってやっておる職員がやっぱり美德とされた。けれども、もう今そんなことは全然通じない時代なので、私、総務課の課長をやっておるときに、一回どんなもんなかなあとって年間の統計を2回ばかり取ったんですけど、今、全部勤怠システムでシステム化されていますので、全職員の役場にいた時間、全部合計して、そしてそのうち時間外を払った割合というのを出しました。2年ほどやって、最初にやった年が二十数%前半でした。あとはほとんどサービス残業。それでやっぱりこういう時代で、時間外勤務をした職員にはきちっとした対価を払うべきという風潮がやっぱり高まってきまして、そのときにやったら40%に上がっています。最近はちょっとやっていないので、あれですが、本当にまさしくやっぱり労働に対する対価として、もう今となってお金、そんな定額でというのはおかしいと思いま

すよ、やっぱり。だから、そういう点で、私もその辺の4%から10%に上がったからどうのこのという次元の問題ではないなというふうにはつくづく思っていますけどね。

○浅野委員 私もちよっと。

自分も学校におりました関係で、この働き方改革についてはいろいろと頭を悩ませるところが多かったんですが、基本的に文科省が言っている、こうしたことを守りなさいよという、この守りなさいよという裏腹に、学校の本来あるべき人数と仕事量の、これが保たれていないというところがもう初めからあるのに、要請だけはこうしているというところが、先生方は大変苦勞しているんじゃないかなというふうに思います。

なので、ある程度もうそれがちゃんと確保してあって、それはもちろんいろんな補助はしていかないかんのかもしれませんが、それをした上でのこれをというふうなら、かなと思うんですけど、それがなかなかどうしてもこの教育の場においては難しい部分もあるので、やはり私も定額というのはどうも、ちょっとどうかなというふうに思います。以上です。

○朝倉委員 僕も先生方の働き方って正直分からないので、全然イメージだけなんですけど、特に大変だろうと思うのが、保護者、モンスターペアレンツ、などというのはマスコミが大きikutたくもんで、何か物すごい先生方が悩み苦しんで病気になる方も結構みえるとか。これというのは、結構輪之内あたりではどうなんですか。

○増田委員 ゼロではありません。

○市橋（肇）委員 ゼロではない。

○浜田教育委員会主幹 はい。学校を飛び越えて教育委員会に来る方も見えます。でも、そうしたときは、私、なるべく学校には行ってもらわないように……。いつでも来てくださって言ったら、それならまた来週来ようかしらんと言って笑顔で帰ってもらえるように、私がいつでも聞きますので、校長先生にちょっとこういうことがありましたよというふうなことぐらいで、あそこで止めるようにしていますが。

○朝倉委員 よっぽど、それこそ学校の何々先生出せとかとって、そんなことは……。

○浜田教育委員会主幹 いや、担任替えろとか、そこはないです。

○増田委員 教育委員会に直接電話が入ったり、来庁されてということについては、本当に正直ゼロではありませんが、浜田主幹と石川主任指導が上手に対応してくださるので、割と気持ちよくかどうかは分かりませんが、お帰りいただいています。こういうことがありましたという報告については、すぐに管理職のほうへ伝えております。

今年度に関して言うと、そこを飛び越えて直電がかかってきたのは、私に1件だけです。

○朝倉委員 いろいろ言いたい方はもちろん見えるんですよ。多いか少ないかは分かりませんが、すけれども。

○浅野委員 学校内で、こうしたことで保護者の方からクレームを受けるというのは確かに今までもあったことがありますけど、いつも教育委員会の方が助けていただいています。

ただ、私、恥ずかしいことですが、自分が管理職のときに、管理職が追い込まれるのも結構ありまして、そうするとやはりもう後ろがありませんので、先ほどのスクールローヤーの弁護士さんに御相談に行かせていただいたこともありました。だから、そういうことを学校もちゃんと毅然とした態度で、後ろ盾がそうやってあるというところを、本当に毅然とした態度で保護者に臨めるように、そういう安心感を持っていただけるのは本当にありがたいというふうに思います。

○朝倉委員 あと、これもイメージでいろいろと思うところはあるんですけども、先生方、資料がお上手なんですよ。どんな資料を作っても上手に作られるんですけど、ここまで力を入れなくてもええんやないのかなという資料も結構頂いて、学校訪問なんかして、頂くと立派な資料で。こういうのはもっと手抜いてくれればいいのかというようにも思ったりもするんですけど、そういうのというのはどうなんですか。

○石川教育委員会主任指導主事 資料とかは、例えば担任さんであるとか、そういったような管理職の方も含めて丁寧には作られると思うんですけど、やはり基のベースがあって、次の年度に使えるところを直していくというところで、やはり上手にやっていくことが大事かなと思います。やはり今若手の先生たちも増えているので、時間的な部分はすごく、先ほどもお話がありましたけど、時間がかかってしまうというところは、過去のを上手に使いながら自分のものにしていく、そしてまたその方が次の方に教えていくという流れにしていけるといいかなあと思っていますので。

○朝倉委員 国が予算資料なんかで物すごく書くんですよ、パワーポイントと言いながらも目いっぱい書いてあるので、あれはパワーポイントじゃない、パワーポイントで作らんほうがええやろうと思うくらい物すごい詰めてあるんですよ。あんなものは逆に、詰りゃあ詰めただけ読まないんですよ、資料なんて。本当に3行か5行で書いてありゃあ、ぱっと読んで、ぱっと理解するんですけど、目いっぱい国の予算要求資料なんか書いてあるので、資料のどこを見てほしいのかが分からないですよ。

昔、県教委へ1年だけちょっといたときに、本当に先生方、丁寧な資料を作られるんですけど、丁寧はいいですけど、ポイントはどこなのというようなところ、多分本当に今石川先生が言われるように、だんだんとやっぱり若い人が見えれば、その辺も合理的になってくると思うんですけどね。何となくそういうところで結構手間なり、時間なりかかっているんやないかなというのは思いがあるんですけどもね。

○増田委員 よろしいですか。資料作成、本当にこれでもかというぐらい出したくなった自分が

いますけれども、今の時代そうじゃなくて、何が一番引きつけられるか、目が行くかというところをやっぱり重点的にしたほうがいいかなというふうに思います。

幸いなことに生成AI等もありますので、本当にこういうプロンプトでというふうにお願いすると、昨年までのデータも基にしてなんですけど、あつという間に簡略化されて、すっきりしたものが出てきますので、それを100%信じるわけじゃないですけども、そういったことも活用してもらえるように、今後も石川のほうから伝えていってほしいなあというふうに思っているところです。

実際に自分自身が、例えば学校のあり方検討委員会の設置要綱をつくって、参事に相談します。こんな感じでやってみようと思うんですけど。参事さんがいろいろ添削して、それをChatGPTにかけると、もの見事にすっきりと変わってきますので、そういったことに時間をかけたほうがいいのかなというふうに思っています。

○朝倉委員 あと1つ、ちょっと参事に、今例えば3校で同じ、消耗品なんか買う時。あれは3校それぞれでやってるの。購入手続なんかは。

○田内教育委員会教育参事兼教育課長 学校ごとですね。事務官がそれぞれいますので。

○朝倉委員 それ例えば一本でやったりすると、かえって不便やろうか。

○田内教育委員会教育参事兼教育課長 修繕工事とかは、教育委員会で管轄できるものは教育委員会で一括発注とかしていますけど、事務員さんにお問い合わせできるかどうかです。

○朝倉委員 昔ね、県教委にいたときに、高校の事務職員の仕事の合理化をしようというようなことで、例えば西濃なら西濃の高校の事務局あるじゃないですか。共通する事務って、結構あるじゃないですか。例えば紙を買ったり、何か買ったりという事務を共通してやりましょうと。どこかの学校が責任校になって、西濃なり大垣市内の高校が一遍にやると事務の人の手間が省けるんじゃないかって、本庁のほうではそういう案を出したんですけどね。どうもそれぞれ学校の事務の職員に聞くと、かえって不便になるとかかって、結局おじゃんになってしまったというのがあるんです。うちも今3校なり4校でそういうことをやってるのか、やると不便になるのか、あまり効率化が図れんのか、どうなんだろう。

○田内教育委員会教育参事兼教育課長 昨年度、事務官のために共同学校事務室をつくりましたので、小・中学校を統括する事務官を置いて、合理化とかの対応は考えてもらっています。

○増田委員 今のところ、そういう要望は出てきていない。

○朝倉委員 そう合理化が図れるわけでもないですかね。例えばトイレトペーパーを買うにしたら、今現在、そんなにそれが負担になってるというわけでもないよね。

○松岡総務危機管理課長 では、御意見は尽きませんが、この辺りで報告事項については一応この計画で進めていただくということをお願いいたしたいと思います。

---

## 5. 協議事項

○松岡総務危機管理課長 続きまして、協議事項です。

令和8年度教育課所管の主要事業（案）について説明をお願いいたします。

○田内教育委員会教育参事兼教育課長 では、次第の2枚目を御覧ください。

令和8年度教育課所管の主要事業（案）です。

輪之内町教育大綱・町教育振興基本計画の2年目に当たる令和8年度も引き続き事業の着実な推進に努めます。

児童・生徒数の見込みですが、予算要求時は対前年29人減でしたが、最新では31人減の予定です。小学校は395人、中学校は270人です。大藪小学校の6年生が2クラス以外は全て1クラスの単学級で、最後の2クラスになる見込みです。

教育費の予算としては、対前年18.3%増の6億8,735万1,000円です。教育総務関係の新規事業は、先ほど教育長が挨拶で申しましたように、今後の学校のあり方検討委員会の設置、フレンドスペースにじの開設、そして新たに神戸町と2町でスクールローヤーの委託事業を予定しております。

学校教育関係では、中学校の屋内運動場の空調設備工事に1億5,290万円を計上しています。小学校の給食費無償化に伴い、令和8年度改定予定の中学校の給食費については、改定前との差額を中学校の給食費が無償化されるまでは補助する予定です。

社会教育関係では、青少年育成づくりの体制を見直して、子ども・青少年未来づくり交付金事業を新たに創設し、各区の活動を支援します。7年度からは複数の事業を絡めて実施しています。ウェルビーイングinわのうち開催事業も継続して行います。さらに、文化庁の補助を受けて取り組む輪之内文化財活用実施事業についても、継続で5年間実施する予定です。

以上が教育課の主な事業となります。よろしく申し上げます。

○松岡総務危機管理課長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明について御意見、御質問ありましたらよろしく申し上げます。

○朝倉委員 これも、いつも最近どこへ行ってもお話しするんですけども、今の3年生の子が中学へ上がるといよいよ中学校も2クラスになりますという話で、その後、3クラスに戻ることは多分ないですね。

○増田委員 今日午前中に大藪小学校の訪問に行っていたんですけども、32人の学級が多く感じるよね。1教室の中に。そういうのが現状です。

○市橋（肇）委員 自由にお話しさせていただくと、私ども団塊の世代、そのちょっと後ぐらいなので、福東小学校が全校103人と書いてございますでしょう。私、仁木小学校で1学年101人

いたんです。そういう時代。だから、どう言ったらいいんですか、学校というと少なくとも三、四百人はいると。四、五百人ぐらいはいるのが学校というイメージでした。中学校にしてもね。中学校は私の学年は225名だったですね。

○朝倉委員 一番多い年ですか。

○市橋（肇）委員 いや、一番多い年は僕らの2つ上ですね。ちょうどやっぱり団塊の世代の一番最後ぐらいでしたので。

だから、そんなことを考えると、本当に極端な話、卒業式がこうやって近づいていると、教育委員会の告辞にお邪魔するんですけど、本当に少ないなあというのを感じる次第です。

この前も、私、仁木小学校が母校ですが、運動会があったんですけど、小学校で。案内をもらって行ったら、8時半から始めて11時半かそこらぐらいまでまるっとやっていたんですけど、何と10時ぐらいに終わっちゃうというような。それで、運動会も紅白に分かれているだけなんですけど、徒競走なんかは4レーン使うんですよ。そうするとすぐ終わっちゃうんですよ、1学年が。なぜあれ2レーンぐらいでやらないの、紅白だけでやらないのかと思ったりなんかして見ていたんですけど、本当に質的な話はちょっと別問題にして、数は力なりというんですけど、やっぱり数が絶対的に少ないというのはやっぱり寂しいというか、今日も教育委員会があって、この今後のあり方検討会を設置して協議していこうという話なんですけど、やっぱり根本的にはもうちょっと子供さんを増やす施策、今の少子化に対応した学校の在り方というよりは、やはりそれはそれであってもいいけど、あまり少子化のための対応であってはならないなあ。現実的にはやらなきゃいけないんですけど、何となく一方でまちおこしというか、まちづくりという観点では、やっぱり子供を増やす施策にもっと力を入れていくことも必要じゃないかなあというふうに思いました。

こういう教育に関するいろいろな予算の配置の仕方は、輪之内というのは、うがった見方で数字がちょっと間違っているかもしれませんが、年間の予算って五、六十億とか、そういったものに対して、昔からずうっと自分も見させてもらっていると、十数%常に教育にはかけていただく。それから何か所要の設備更新とか、設備を設置するということに対して特段の御配慮をいただいて、ちゃんと反映していただいていると。そういう点では、教育を重視していただくという施策、すばらしいなと思ってはいます。それとは別の分野のほうで、何かまちおこしというのをやって、例えばある程度の、企業も最近合理化しちゃっているから、あまり人口は増えない可能性ありますけど、社宅だとか、それに伴う人口増だとか、子供さんが増えるとか、そういったようなことがもうちょっとあってもいいかなあなんて、そういうところを期待したいと思っています。

だから今、自分が輪之内を一時的に35年間ぐらいいなかったんですけど、帰ってきて、自分

たちが社会人に出るときって、町にそれらしい産業というのがあまりなくて、だんだん、どう言ったらいいんですかね、農業が衰退していくようなときだったので、地元就職するところがあまりないという状態なので外へ出ていくというような感じがあったんですけど、人数も多かったですから。

だから、そういうことからすると、今の時代はいろんなある程度一部上場企業も増えてきたりなんかして、だんだん基盤はよくなっていると思うんですけど、何となくやっぱり町としての定着する人口がまだまだ十分じゃないから少子化せざるを得ないのかなあと。でも、ほかの地域よりは、減少の仕方は輪之内はちょっと鈍いというか、人口減少は。ただ、外国人労働者の寄与率が高くなっているという点ではちょっと残念なんですけど、子供さんが増えるという施策をもうちょっと別の次元で打って行って、力を入れていただけるとありがたいなあと。

○朝倉委員 今市橋委員言われるとおりでして、今の町の課題いろいろあるんですけども、とにかく人が減って、これから活力が失せてくるとどうなるんだというようなことで、まず今子供を増やさないと。ただ、子供を産んで増やすというのは本当に難しいですね。役場で何十億かけたって、難しい。ささいなことかもしれんですけど、出産祝い金を今回上げますが、それは産むきっかけづくりというよりは、少なくとも輪之内で子供を産んで育ててくれてありがとう、という気持ちが強いです。それからとにかくやっぱり住んでもらえないんですよ、ファミリーも。

今おっしゃるように、昔は企業が来たから、それに合わせて引っ越して定住するというのがあったんですけども、今はなまじっか輪之内は通勤等に便利なもので、みんな羽島や大垣に住んで通ってみえるということで、この間も少し調べてもらったんですけども、平成20年頃、一番輪之内が元気な頃ですけども、その頃、年間60軒ぐらい家が建ったんです。去年は十二、三軒なんですよ。

家を建てればいいというものでもないんですけども、家を建ててもらえれば、そこに住まれるわけで、住民税も入る、固定資産税も入る、子供さんが、ファミリーがおれば、その分税収が入るということで、とにかくまず、家を建ててもらわないとということで、こちらのほうの補助も少し増やします。何とか輪之内に定住してもらえんかということで、即効性はなかなかないのかもしれませんが、少なくともそういうことで町が頑張っているというところを外に見せていかないと、本当にこういう数字を見るたびにどうしていくんやと。

今、市橋さんは比較的緩いと言われたんですけど、緩いわけでもないですね。ここ10年間で、前半の5年と最近の5年では減少が大きくなっています。この間の国勢調査でも、はっきりしています。何とか子供がいるファミリーに来てもらって住んでもらう。来年やってみて、どのぐらい効果があるか分らないですけども、とにかくやらないことには本当に一大事だと思っ

ています。

○市橋（肇）委員 この前、何か輪之内が第3子以降は20万円だったのを50万円にするとか、そんな言い方もあったように思うんですけど、今どうなんですかね。第3子と言っているけれども、第2子からして、いらっしゃらないんじゃないかと。だから、拡大していくのが第3子以降じゃなくて、第2子のほうを確実に取るとまだ維持はできるんじゃないですか、人口的には。今、2も行っていないんじゃないですか。

○朝倉委員 行っていないですね。

○市橋（肇）委員 だからあれ、3子以降じゃなくて第2子以降で考え直したほうがいいんじゃないかなあと。

○朝倉委員 そうですね。今の条例が3子以降なので、取りあえず3子以降としましたが、市橋さん言われるように、3子よりも2人目のほうに手厚くしたほうがいいのかなあというような気もしなくもないんですけど、そのところはよく状況を見せてもらってまた考えます。

○浅野委員 うちは孫が、子供3人おるんですけど、2人ずつちょうどあれなので、今回こういうちょっと上げていただいたことを大変喜んでいました。やっぱりいいなあというふうに思っているところもたくさん見えるんじゃないかなあと思うんですけど。

でも、ある先生がこの間もちょっと情報化の推進会議で言ってみえたんですが、輪之内は本当に以前から教育に関して、これもいろいろお金を出していただいている。それをもっと広げないかんねということをしていろんな情報の手段も使いながら、今のようになら御存じない方もいらっしゃるので、そういったところで、本当に子育てをしていこうというようなことを思っている皆さんは、最近情報にすごく皆さん若い子たちはいろんなキャッチをしますので、そういうところから、輪之内ってやっぱり本当に住みやすいなというようなことがもっと伝わるような方策を何かさせていただくといいかなと。

○朝倉委員 母子保健とか、結構いろいろ町が単独でやっているんです。法律で決まったことはもちろんやっていますし、町単独で、結構私も知らなかったぐらいですので、やっぱり同じ話なんです。やってるんなら知らせないと。知らないということはやっていないと同じことなので、とにかくやってるんなら、どんどんPRしてやっていってよと。いろんな形でイメージアップしていかないとと思っています。

○市橋（修）委員 いや、僕も、3歳児健診って保健センターでやっているんですけど、最初20年、30年ぐらい前だったですかね。3歳児健診、年に五、六回で、1回に15人、20人が普通だったんだけど、本当に最近3歳児健診、今日何人って。1桁が多いですね。1年間何人かといったら、統計調査してみると50人行くかなという感じでしょう。それで、そりゃあ人口減っていくわなという感じがする。本当に実感として僕も思っているんですね。

東京なんかだと、例えばこれ全然話違うんですけど、蓄電池とか、あの辺の住宅の施設・設備をすると、100万とかぐらい補助金というのが出るんだよね。そうすると、統計だと一戸建てでソーラーやって蓄電池やると、150万とか半分以上何か国から来るみたいなね。だから、ああいうことも東京はやっぱりお金があるのでできるんだろうけど、だから余計東京に集中しちゃう。

だから輪之内も、家、先ほどのお話じゃないけど、住宅を建ててもらおうと人口増加になるんだったら、その辺のこともちょっと思い切って、東京まで行かなくてもやってもらったほうが、多少はちょっと人口が多くなるんじゃないかなというのを最近ちらっと思いましたね。

○市橋（肇）委員 でも、あれですよ。全般的に言うと、今おっしゃっていたように、やっぱりいろんな制度、福利厚生から今の行政というのはすごくいろんなことを細部にわたって補助をしていただくシステムが出来上がっているんだけど、申請しないことにはもらえないんですよ。だから、申請するというのもっと知っている人たちはみんなにアピールしてもらう努力をしたほうがいい。特に何かでああやって知らせていても、あまり広報なんかも盛んにいっぱい書いてくださっているんですよ。こういうの申請できますよ、こういう補助ありますよって。でも、みんなあまり見ていないと思うんですよ。だから、やっぱり知っている人が口コミでやって、私もよかったよという成功体験を言わないと、下手すると面倒くさい、申請することが、手続が厄介だって。そういう方向へ行っちゃいがちなので、受けた人、申請してきて、もらうことになったような人たちには、ほかの方にもぜひ進めてくださいねを一言担当職員のほうからもアピールしていただけるとありがたいなと思いますけど。

○朝倉委員 昨日も課長会議があつて話はしたんですけども、今おっしゃるように、例えば議会なんかでちゃんと広報したか、周知したかと質問が出ると、みんな広報に載せましたと言うんですね。広報に載せました、ホームページに載せましたって言うんですけども、多分「広報わのうち」は年配以上の人しか見ないよと。例えば40以下の人に「広報わのうち」に載せましたと言っても、あんまりみんな見ないよと。

だから、若い人には今のプッシュ式でもってやっていかんと、それは広報したうちに入らんよというようなことは昨日もお話しさせていただきました。LINEを使って直接やっているところも今はもう当たり前になっています。「広報わのうち」に載つけたから9,000人に周知できたって、それは違うぞと。この数字も、これだけ見ると人数少なく、うーんとなるんだけど、逆に少人数教育充実していますよという出し方をすれば、そういうところでやりたいなあって。

この前の統合のアンケートを見ますと、統合して一緒になって新しい建物がいいねというのはかなりの人が書いてみえるんですけど、中には、今の少ない園舎、少ない保育園で伸び伸びとやっているのいいです、できればこのままやってくださいという人もやっぱり見えるんで

すね。

なので、これはこれで売出しの仕方次第かなという気はしなくもないです。変えようがない  
ものですからね、これは。ただただ少なくなくて、この先お先真っ暗でと言っていてもらち明かな  
いので、少人数の教育充実していますよって、実際に充実させていかないかんですけど。

○浅野委員 先ほど、ちょっと広報の仕方であれなんですけど、本当に役場のこういう文書とい  
うのは難しく、一般の者にとっては、PDFでぽこっと上げられると、本当に読まないとい  
うか、読めない。もっと何か分かりやすい言葉で、若者もぴっと分かるようなふうで簡単に書  
いていただいたほうが、もっと広がるんじゃないかなというふうに思います。

○松岡総務危機管理課長 そうですね。非常に専門用語が多くなっちゃったりして分かりにくい  
部分があるので、易しい日本語で広報できるように取り組んでいきたいとします。

○市橋（肇）委員 あと、十二分の解説とかいろんなものをつけると、かえって申請する側から  
すれば遠のいちゃうというのかな。面倒くさいかもしれないけれども、あまり詳しく書くよりも、  
ある程度ピックアップしやすいとか、フィッシングしやすいとか、釣り糸を垂れるよう  
な言い方にして、不足のときには個々にやってもらうと。でも、面倒くさいかもしれませんけ  
どね。何かそんなことをちょっと感じたりもしますけど。

まずは応募するということが大事なんだろうと思うんですよ。さっきも言ったんですけど、  
とにかく何かやったら報われるという体制には今なっているんだから、応募してくる人を増や  
すという方法がいいかなと。だから、つかみはオーケーとか、つかむところを何か力入れ  
てもらえるといいかなあと思いますけど。難しいんでしょうけどね。いろいろ工夫されている  
んですけど、ともすると、何かあれかな、言葉がたくさん長くなってくると、みんな読まない。  
キーワードだけのほうがいいような気がする。

○松岡総務危機管理課長 分かりました。

○市橋（肇）委員 でも、親切になっていますよ、とにかく。広報なんかでもしっかり。

○松岡総務危機管理課長 ありがとうございます。

○市橋（肇）委員 それから、私はちょっとよそへ行ってたもんだから、田舎へ帰ってくる  
ときに一生懸命広報を読んでおったんですよ。今の輪之内、ふるさとどうなっているかと。だか  
ら、そういうときには広報ってよくまとまっている、いいものだなあと思いましたよ。だから、  
逆にそういうふうに関心している人間も、Uターンして帰ってくるようなところもち  
よっと考慮しておってもらいたいかもしれない。できれば家族を連れて帰ってくるような、そ  
れがいいかなあとあって、そういうのも紹介してもらいたいかもしれないですね。こうい  
う今行ってたけど、帰ってきて、また輪之内でそれなりにやろうとしているよというのあ  
ってもいいかなあと思うんですけどね。

○松岡総務危機管理課長 輪之内しかないという部分をもっとPRするのがいいかもしれないですね。何もかも補助金こういうのがありますよじゃなくて、輪之内はこういうのがありますよみたいな。

○市橋（肇）委員 ものが、特徴が出せるといい。

○松岡総務危機管理課長 特徴が出せる、そうですね。

○市橋（肇）委員 それだったら最高ですけど。

あと、先ほど人数が減ってきたから、私たちが50人1クラスぐらいで教わっている時代、先生1人しかいなかったんですけど、今35人以内で、20人ぐらいで先生2人いるんですよ、支援員も入れて。すばらしいと。個人授業やってもらっているみたい。だから、悪さもみんな先生たち把握しちゃっていて、今の浜田先生とか石川先生なんかは、この子はこうだということを個別にインプットされているんじゃないかと思うので、そういう点ではすばらしい教育をしていただける機会は本当にありがたい。

1人に対する教育費というのは、とにかく我々の時代は、ある程度経済的なものがあって上級の学校へ行けなかったというのがあったんですけど、今は本人さえやる気なら何としてでも行けるというシステムになっていると思うんだよね。ぜひそういうのを大いに利用してもらいたい。田舎ほど、本当に質的には厚いんじゃないですか。量的にはどうか知らないけど、質的にはすごく優遇されていると思います。

○朝倉委員 そうですね。今、うちも母校が4年生10人で、10人1クラスかあ。

○増田委員 1学年です。

○朝倉委員 そりゃあもうマンツーマン教育ですよ、まさしくね。

○市橋（肇）委員 でも、こういう中でも、何とか魅力ある教育システムにシなくちゃいけないから大変でしょうけれども。

○松岡総務危機管理課長 その辺りも踏まえて、今回協議させていただいております教育課所管の主要事業、令和8年度は取り組んでいただくということでお認めいただければよろしいでしょうか。

○市橋（肇）委員 お願いしたいです。

○松岡総務危機管理課長 よろしく申し上げます。

---

## 6. 意見交換

○松岡総務危機管理課長 では、協議事項は以上で、最後、意見交換、自由討論となっておりますのでよろしくお願いいたします。

○朝倉委員 よろしいですか。言い残したこととか。

ちょっと具体的な話になると、プールはどうしていったらいいですか、プールは。

○市橋（肇）委員 私は、個人的に言うとかっぱり遊休設備過ぎると。だから、もうちょっとプールというものが利用できるあれならいいですけどね。例えば今年なんかは冬季オリンピックやっている、冬場でも使えるように氷を張ってスケート場にするとか、何かもうちょっとプールを、ただ水泳だけじゃなくて多目的に使えるかどうかですよ。でも、どこの自治体もプールって、みんな持て余しちゃっているんじゃないでしょうか。

○浜田教育委員会主幹 昨日会議がありまして、昨日、2郡地の交流会というか、ありまして、関ヶ原は、中学校は自分のところですけど、小学校は僕がいるときから2時間かけて町民プールまで歩いて行って帰ってくるという、かなり負担はありましたが、そういうやり方をしている。あと神戸町、安八町、それから垂井町などは、うちと一緒に継ぎはぎじゃないですけど、壊れたら直して、壊れたら直して、それはプールは50万とか、そうですけど、毎年かかると。ろ過器が壊れれば、200から300をかけながら直して使っていると。よその学校に泳ぎに行くとか、そういうことはできていませんというふうで、ああ、どこも一緒かというふうで。

○朝倉委員 その先を考えているところはまだないですかね。

○浜田教育委員会主幹 ないです。スイミングということも考えていないです。

○朝倉委員 継ぎはぎで直せるうちはまだいいんですけど、いよいよ継ぎはぎじゃなしに、ほとんど建て直しぐらいの工事がかかったときに本当にどうするかという話で。

○浅野委員 コロナのときに、十分行えないときが実際にありまして、隣の学校と合同みたいな、そういう話もちょっと出たんですが、本当に小学校の校舎、どこを回っても本当にとってもいい校舎ばかりで、まだこうやってきれいにさせていただいたばかりで。ただ、プールが今のようになっています。先ほどの運動会もプールもそうなんですけど、本当に1年のうち、ほんの僅かな期間のところなので、例えばもし移動ができるなら、合同で一番大きな大藪小なのか、一番施設のいい、どこかよく分かりませんが、そこにとこのような、その期間だけ足の保障を2時間続きで移動するような形でやっても僕は十分いいと思うんです。また直してやる、そのお金が今後どうなるのか、ちょっと心配です。

○朝倉委員 改めてこの人数を見ると、1回でバスで動けるぐらいの人数であれば、少なくとも3つを常に泳げる状態にしておく必要はないのかなあというのは思いますね。

○市橋（肇）委員 学校だけでなく一般に開放したりして、どういったらいいんですか、遊休不稼働施設の稼働率を上げるというか、それから受益者負担をもうちょっと考えて、メンテナンス費用ぐらいは出せるように利用料を取ってやるとか。

一般的に公共施設って、やっぱりある程度社会にというか、町民に還元するよという体制でやられますけど、今、野球場とか何とかでも、必ずしも町民が使っているわけじゃないと

ころがあったりするので、それなりの利用料金というのは2段階設定されたりなんかしていますけれども、もうちょっとレベル上げてもいいんじゃないかなあと僕なんかは個人的には思ったりします。

とにかくこれから町というか、公共の施設を造るときには、いつもちょっとチェックしていただきたいのは、稼働率は一体どうなんだということを考慮しながら施設設置をするかどうかというのをやるべきだと思うんですね。民間の一般的に企業ならば、投資効果があってどうのこうのというので、そんな遊ばせているという感覚はほとんどないですよ。そういうのはやっぱりお大臣のやることであって、普通の人間はそんな遊ばせているようなことがあってはならないということで、ぎりぎりの線を設定しながら投資計画をやるんでしようと思いますので、そこら辺の兼ね合いをもうちょっと稼働率をちょっと考慮して、稼働率を上げるような設計というのか、デザインにされることが必要じゃないかなと思うんですね、もともとね。

ましてや、ある程度もう致命的なところまで来たなら、もう容赦なく切り捨てるということ、英断をもってやるべきだと思います。そのときは、その人はかなり批判されるでしょうが、受益者からは。でも、後々の人からは、あのときよくやったなあと評価されるんじゃないかと思しますので。だから、そうやって。

○朝倉委員 肝に銘じておきます。

○市橋（肇）委員 でも、あと何年という考え方でもいいんじゃないかと思うんですね。この人数で稼働率考えて、小学校3施設持っているというのは、僕は個人的には無駄だと思いますけどね。

○朝倉委員 そうですね。多分、今市橋さん言われる話で、そんなもんはという方はまだ少ないと思いますのでね。そちらの方向で、また検討していきたいと思います。

○浅野委員 私は思うのですが、日常やっぱり学習に関する部分というのは一番子供たちに還元されるものなので、ここはもう学校としてはなかなか、こういうふうにしましょうということに対して、すごく抵抗があるんですけど、1年のうちに音楽会があったり、プールがあったり、運動会があったり、本当に1年の中のほんの一部の時期に行事を持つみたいなことに関しては、それこそアポロンにみんなが集まって運動会をするというふうにしても全然施設的には大丈夫だろうな、そういうような形にしてもいいかなと思うんですが、学習の面においては一番やっぱり子供たちが、それから先生方を大事にするという意味からすると、人数は少なくなるんですが、少人数の本当に一人一人を大事にする教育を実現できる意味においては、私は決してこれに、ほかの市町がいろいろと動き始めていますけど、そこに惑わされないようにしていかないかんのではないかなあというふうに思います。

ただ、これが複式という形になると、またちょっと話は別になってきますよね。そういった

面からするとという、子供に合わせた部分で考えていけるようにしていけると、もちろん町の財政としては、3校あるよりも1校のほうが効率的であるし、よいのかもしれませんが、子供たちの学び方という意味では、本当にこれをまた売り物にしていくような形があってもいいんじゃないかなというふうには個人的には思っています。

先生方も、今本当に子供たちも難しくなっていてきていまして、せっかく少しずつ文科省が幅を狭くして、1クラスの人数を狭くしてきた分、小さくしてきた部分に、じゃあまた寄せ集めで30人や40人の学級をまたつくって、でも文科省の基準が変わらない限り、ここに配置される先生は変わりませんので、先生たちの負担は増えるに決まっているんですね。子供も、そこで先生たちに関わる部分、関わってもらえる部分というのは、増えるかという決してそうではない。ただ、多様な学びやいろんな交流ができるという、そのよさを大事にするという意味からするとそうなんですけど、そのことだけでいくと本当にどうなのかなということをやっと思ったりします。

地域のいろいろな思いもあると思いますけれど、今までの、今後は分かりませんが、輪之内は本当に子供たちのこの教育にすごく惜しみなくお金を使っていただいていたので、本当にありがたかったんですけども、そういった部分も含めて考えていただけるといいかなあというふうに思います。

○朝倉委員 僕はこのあり方検討会は別に全然急ぐ必要もないと思っていますし、とにかく慎重にやっていかないと。先日の記者発表のときに、すぐに決めるんですかという質問があったので、いやいや、そんなものは全然まだまだ先ですと。僕はまだ統合するとか、そんなことはまだ先の話だと思うけれども、早めに立ち上げて検討はしていきますけど、全然結論は急いでいませんからということで議会には話はさせてもらったんです。本当に地元があつての今の学校、子供らもそうですので、やっぱりその辺は慎重にやっていかないと、後で何であんなふうに決めた、と言われてもなかなかつらいもんですからね。

○市橋（肇）委員 絶対言われる。

○増田委員 よろしいですか。複式学級があった学校を経験した浅野先生や私の立場からすると、本当に複式学級が出現すると大変です。それから考えると、現状本当に少人数で行き届いた教育ができていないんじゃないかなあということは思います。ただ、国が求めているとか、世の中が求めているような学び合いとか、競い合いとか、いろんな情報を得てくるということについては、若干弱さがあるのは否めないなあというふうに思います。どちらがいい悪いではないと思うんですけども、そういったことも含めて、あり方検討委員会の中で御意見をいろいろいただきたいなあというふうに思っています。

それから施設については、体育館の空調化もそうですし、プールもそうなんですけれども、

費用対効果ということで考えたら、恐らくプールが一番の金食い虫で、一般企業でいうと真っ先に切られるんじゃないかなあという気はします。また、あればあったで、何でもっと使わんのやって言われるし、なくしたらなくしたで、この後どうしていくんやというふうになると思うんですけども、そのために8年度、大藪小学校でろ過器を替えれば、恐らく向こう5年間ほどの学校も内装のひび割れや破れの補修ぐらいで、何とかもっていくんじゃないかなあ。そうすると、行政バスや何かをお借りして移動もしなくてもいいし、どこかの業者に委託して別の施設を借りなくてもいいので、そういう意味の費用対効果で考えると、何とか5年間はおつんじゃないかなあというふうに考えて当初予算を組ませていただいたところなので、現状何とかこのままでできるといいかなあ。ただ、天候が許さないというか、暑過ぎても駄目というようなこともあって、これがまた難しいかなあというふうに思います。勝手なことを言って申し訳ありません。

○浅野委員 先のことを心配するんですけど、先ほどの今の4年生が中学校に上がったときから2クラスになる。中学校2クラスになるということが、実は上石津にもあったんですが、上石津が動き始めたのは、中学校の教科担が賄えなくなってしまって、中学校のほうから、親さんから出てきたんですね。

だから、専門的な教育が中学校でできなくなる、人が少なくなってしまって、先生たちがその分減らされてしまって、教科の免外がすごく増えたり、成立しない教科ができてしまったというところが最初にあった。小学校は別にそんなあれはなかったんですけど、複式の中でやっていたんですが。そうすると、うちももしかすると、この2クラスになることで、もう目の前にそういうことが来るのは確かなので、そこの例えば町の常勤講師さんで賄わないと、その部分が何ともならないのか、そこら辺を少し乗り切れる方法をちょっと取っておかないと、6年後とかそういう……。

○朝倉委員 ただクラスが、3クラスが2クラスになるだけじゃないんだ。

○浅野委員 はい。そうすると本当にぎゅっと先生たちが減ってしまうので、中学校が悲鳴を上げ始めると思います。なので、そこら辺をある程度先を見越して人を増やせる、県とか、そういうところがなかなかお金を出してくれないのが今の現実なので、そういうところで何か補助ができるのであれば……。

○市橋（肇）委員 いいけどね。

○浅野委員 いいなあというね。

○増田委員 いいですか。正直に言うと、現状でも今の輪之内中学校は、例えば技術、それから美術、家庭科、ほかの教科も、途中ではあったんですが、理科とかも免外対応しています。免許外の教員がやっています。ただ、初任者は免外指導できない、それから教頭もできないです

ね。なので、いる人数、教諭の中で申請をして、県が認めて、ようやく指導できるということで、複数の教科の免許を持っている方が見ればいいんですけども、そうじゃない場合は全く経験がないままやるというパターンが出てきているので、先ほどの話で、中学校が学級数が減るといのは、本当に教員が1人減るだけじゃなくて、教科をどういうふうに指導していくのかということで大変で、正直申し上げますと、この1月、2月、何回か余分に事務所へも行きましてし、電話だけでは駄目なので、直接行って、こういう人間が欲しい、欲しいという言い方はよくないですね。配置していただきたいということを繰り返し繰り返しお願いしてきたところなんですけれども、それでもこの学校も同じような状況なので、うまいこと配置はできないというのが現実で、例えば浅野先生、申し訳ないけれども、社会科専門やけれども技術教えてもらえんかなあといつて、週何時間かお願いするというようなのが実情です。浅野先生、そんな感じやね。

○浅野委員 そうですね。

○浜田教育委員会主幹 あと病気になったり、育休を取ったりすると、その代わりは常勤しか駄目というルールがあって、理科の先生見つかったけど、非常勤ならやってもいいよといつても常勤しか駄目とか、県のルールがあるので、そうすると先生たちをお願いするしかなくて、だからはっきり言って、早う帰れよって言えない状況です。本当にありがとうね、倒れんといつてよって、実際そうです。

○市橋（肇）委員 僕、個人的に思っているんですけど、餅は餅屋に任せたほうがいいという考え方で、いろんなものが昔はすみ分けという考え方で、必ずしも教職員の方がそういう特殊な教育を担わなきゃいけないかどうかというのは、僕は疑問だと思っているんです。むしろ経験者とか、専門学校とか、そういったところの人材を教職員としてアルバイトしてもらおうというようなことをもっと進めてもいいんじゃないかと。

というのは、僕は、部活動を地域に任せたいとか何とかって今やっているじゃないですか。私は個人的に自分たちの時代というのが、東京オリンピックもあるようになった、国体も盛んになったというので、スポーツ関係にいたんですけど、そのときは先生がやってくれる、それから国体があると、岐阜県もそのときにスポーツのできる教職員を雇って国体で結構優秀だったという時代もあって、あと教職員チームとか、そういうのもあったりなんかした。そういう時代もあって、僕は個人的に言うと、地域に委ねるよって、部活動を。そういうときの考え方の中には、私たちの時代では、先生が教える一教科じゃないかというようなイメージを持っておったんですよ。

そういうときに、例えば美術の先生とか文化系の先生というのは一種独特で、技術・家庭の先生もそうですけど、ちょっと普通の教科の、他の教科の先生とはちょっと異質な感じがちょ

っとあったんですけれども、そういったことを考えると、例えば家庭科なんていう教育も今はもうほとんど、高校でも家庭科というのがあるようなところはもうほとんどなくなってきているんじゃないでしょうか。だから、やっぱり主要5教科と、そういう特殊な専門教育とはそろそろ考え方を分けたほうがいいんじゃないかなあと。それから、県の教育委員会なんかも、それぞれの教える教科に応じた要員というのはどこから確保するかということもしっかり考えたほうがいいんじゃないかと。

いつも毎年教員の配置がこれだけ不足していますとか、そういう話がいつも上がってくるので、僕はいつもその報告を聞くと、ちょっと腹を立てていて、いつも言っているじゃないかと。全然改善されていないと。教えるに当たって要員を確保するのは、それぞれマネジャーの要員確保というのは最大の使命ではないかと。お金の管理もあるけど、要員がないので、いません、いませんって泣き言言っているんじゃないかねえと言いたくなるころはありまして。だから、違う方法に発想転換できないのかと。だったら、あるところから取ればいいじゃないか、働きかければいいじゃないかということをやっと僕常々思っていたので、要員確保という話になると、いつもじれったいというか、じくじたる思いをするんですけど、足らなかつたら、どこかからでも、大枚積んでも確保しなくちゃいけないんじゃないかと。できないできないって、いつまででも言っておったって、泣き言言っているんじゃないってというのがちょっと私なんかの感覚ですね。

だから、餅は餅屋で特殊な技能だと思うんですよ。技術・家庭の先生だとか、芸術の先生もそうでしょうけど、そういったところはちょっと違う発想で、経験者採用というか、技能取得者を先生にするということでは何とか賄えないかということも考えていただけたらいいんじゃないかなと思っているんですけど。

1人の先生が多能工化することもいいんですけど、今はどちらかというところ、高等教育のものを幼少のところでも、小学校5年生、6年生にも例えば英語を持ってくるだとか、数学を持ってくるだとか、理科教育を持ってくるだとか、どんどん低年齢化しているんですよ。だから、要員なんか足りないはずなんですね。そうしたら、そういう専門職のあるところから、もしくは専門職で生きてきたスペシャリストを教育の場合、導入することを考えてもいいんじゃないかと。だから、極端な言い方をすると、校長先生とか、マネジャーの教頭先生なんかには負担になるかもしれないけど、もっと民間から採用するような格好をもっとどんどんやってもいいんじゃないか。

というのは、今スポーツにおいては経験者とかスペシャリストを使おうとしているじゃないかと。そうしたら、どうしたら普通の教科でもやろうと思わないんだと。そこら辺が僕よく分からない。一貫していない。批判めいたことになってすみませんが、ちょっとそこら辺、自分

としてはちょっとじくじたる思いがあります。要員の話になると、いつも腹立つんです。いつも足らん足らんという話が出るんですよ。そこだけですね。もっと県の教育委員会も、もうちょっと広い視野で人材を見てもらってもいいんじゃないかと思うんです。

あと、経験者採用というので、人材育成というのはどこのところでも大切なことなので、何かあまり教育課程を修了した人じゃなきゃ駄目だという考え方じゃなくて、そういう人でも使いこなせる教頭先生だったり、校長先生があってもいいんじゃないかというふうになんかちょっと思うんですけど。そこだけ要望ですけどね、自分はそういうことを期待したいと思っています。勝手なことを言ってすみません。

---

## 7. その他

○松岡総務危機管理課長 それでは、お時間も大分過ぎましたので、意見交換は閉じさせていただきます。その他何か連絡事項とかありましたら。

よろしいですか。

---

## 8. 閉会

○松岡総務危機管理課長 それでは、以上で第2回の輪之内町総合教育会議を終わらせていただきます。御苦労さまでした。

○朝倉委員 すみません、ありがとうございました。御意見たくさんいただきましてありがとうございました。よろしく申し上げます。

(午後6時03分 閉会)